



大雪山の高山植物

大雪山国立公園連絡協議会



大雪山国立公園

持ってきたものは全て持ち帰る
持ってこないものは何一つ持ちださない

国立公園は、国民共通の財産です。高山植物の採取は大雪山国立公園のほとんどの区域において禁じられており、違反者には懲役等の罰則が適用されます。私たちに許されているのは、歩道から観察することだけです。

発行：大雪山国立公園連絡協議会
TEL01658-2-2574 FAX01658-2-2681

協力：保田 信紀(解説文)
加藤 千善(写真)

参考図書：北海道の高山植物(北海道新聞社発行)

【関係機関連絡先】
環境省自然環境局

上川自然保護官事務所 TEL 01658-2-2574 FAX 01658-2-2681
東川自然保護官事務所 TEL 0166-82-2527 FAX 0166-82-5086
上士幌自然保護官事務所 TEL 01564-2-3337 FAX 01564-2-2933

大雪山の高山植物

北海道の森林植生の垂直分布は、低標高地から高標高地にかけて、下部広葉樹林帯～針葉樹林帯～上部広葉樹林帯(タケカンバ帯)～ハイマツ帯へと特徴的に移行しています。高山植物とは、一般的には、森林限界を越えたハイマツ帯に生育する植物を呼んでいます。道北や道東などの海岸近くの高層湿原に分布する種も含まれています。

これらの高山植物の北海道への分布経路を単純に考えると、一氷期に、海水面の低下により、陸橋を通して大陸から北海道に進入、その後の温暖化(間氷期)にともない、寒冷な気候条件を求めて高山へ昇りつめていき、現在みられるような分布パターンを形成し、といった過程が考えられます。北海道の高山植物の多くは北方系起源と考えられていますが、主な進入経路としては、1) 東シベリアからサハリンを経由して北方から、2) カムチャッカから千島列島を渡って北東から、そして、3) 南の本州からの3ルートが考えられます。大雪山はそれらの分布経路が交錯しているところです。(右図参照)

大雪山の高山帯は広大で、その高山植物群落の規模と豊かさは比類のないものです。現在、高山帯に分布する植物としては約250種以上が記録されており、そのうちほんとうの意味での高山植物は約200種とされています。これらの高山植物群落は一見モザイク状に分布しているように見えますが、その分布は立地の風衝、積雪、微地形などと深く関連しており、全体的には、風上側より風下側へと、高山風衝地群落→ハイマツ群落→高山雪田群落あるいは高山雪潤草原へと移行しています。以下に、大雪山系現存植生図概説(1981 伊藤・佐藤)を参考に、高山植生の構成群落を示しておきます。

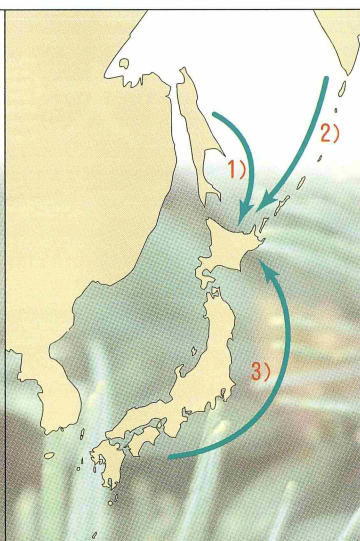
1. 高山風衝地矮性低木群落。
コマヅガザクラ・ミネズオウ群集、ウラシマツツジ・クロメノキ群落。
2. 高山礫原矮性低木・草本群落：エゾマメヤナギ・エゾオヤマノエンドウ群集
3. 高山岩礫地草本群落：コマクサ・タカネスミレ群集
1～3は高山風衝地に発達し、全体的には植被は少ない。高山帯のなかでももっとも気候条件の厳しいところで、冬期にも積雪は少なく、地面の露出するところが多い。多くは地下に永久凍土が発達している。
4. 高山嫌雪低木群落：ハイマツ・コケモモ群集
ハイマツ・コケモモ群落、ハイマツ・チシマザサ群落、ウラジロナナカマド群落。
ハイマツ群落で冬期には積雪に覆われている。風上側斜面では上部の積雪の少ないところではハイマツ群落の丈は低く、下部の積雪の多いところでは丈が高くなる。
5. 高山雪田群落
エゾツガザクラ・チングルマ群落、アオノツガザクラ群落、エゾコザクラ群落、イワイチョウ群落、ホソバウルップソウ群落、ミネハライ群落、タカネクロスゲ群落、ミヤマクロスゲ・チシマクモマクスサ群落、シンヨウスイバ群落。
風下側の積雪の豊かな立地に発達し、残雪は夏期遅くまで残る。

6. 高山雪潤草原

チシマキンバイソウ群落、ハクサンイチゲ群落、ミヤマキンボウゲ群落。

風下側の積雪の豊かで夏期には比較的に融雪が早い立地に発達する。高茎草本類のお花畑で、多くは雪崩の発生しやすい急斜面に群落を形成するが、五色ヶ原や黄金ヶ原などのような平坦地にも広大な群落をつくる。

以上のように立地環境の変化によって、高山植生の構成群落は異なっていますが、よく観察すると、それぞれの群落を形成している種の構成はさらに変化していることが理解できます。これらは高山帯の厳しい自然環境のなかで、長い時間と微妙なバランスのもとに形成されてきたものですが、高山植物の被害(特に踏みつけによる踏圧被害)が目立つようになりました。一度傷つけられた群落は、なかなか元に戻らないばかりか、その場所から増々傷が広がってしまいます。高山植物群落が成立する微妙なバランスを理解し、高山植物を踏むこと等がないようマナーを守って、自然とのふれあいを楽しもうにしてください。



コマクサ

【ケシ科】

花期 7月中旬～8月上旬
生育地 風衝砂礫地・構造土・乾燥した礫地



イワウメ

【イワウメ科】

花期 7月中旬～8月上旬
生育地 風衝地の湿潤な礫地や草地



イワヒゲ

【ツツジ科】

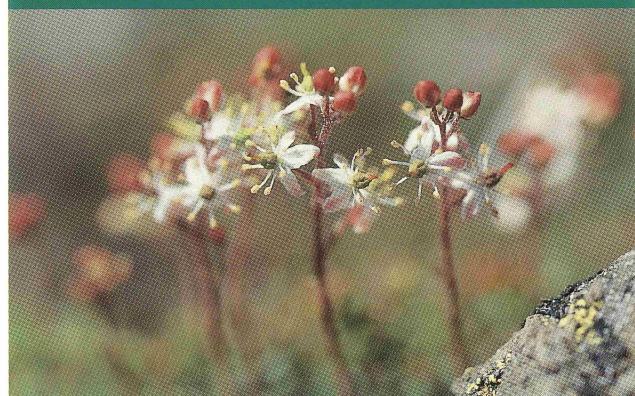
花期 7月～8月上旬
生育地 風衝の厳しい乾燥した礫地



チシマツガザクラ

【ツツジ科】

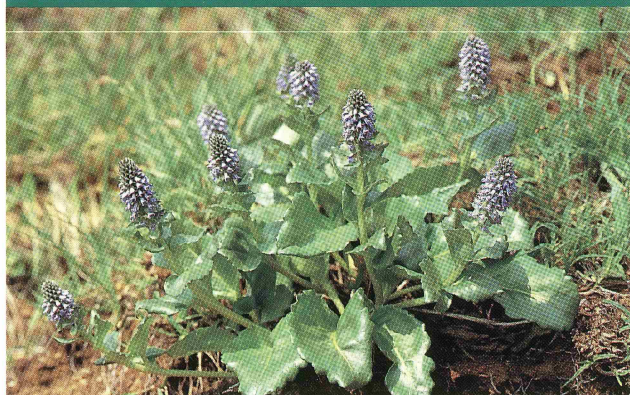
花期 7月中旬～8月上旬
生育地 風衝地の乾燥した礫地



ホソバウルップソウ

【ウルップソウ科】

花期 7月上旬～8月中旬
生育地 大雪山の湿った砂礫地や草原



タカネシオガマ

【ゴマノハグサ科】

花期 8月上旬
生育地 乾燥した草地や岩石地



コイワカガミ

【イワウメ科】

花期 7月中旬～8月上旬
生育地 湿潤な岩石地や草地



ミネズオウ

【ツツジ科】

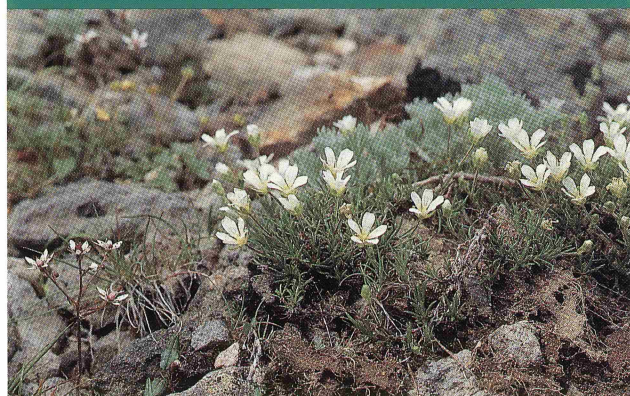
花期 7月中旬～8月上旬
生育地 風衝地の乾燥した礫地



エゾタカネツメクサ

【ナデシコ科】

花期 7月中旬～8月上旬
生育地 風衝の厳しい乾燥した礫地や岩石地



キバナシオガマ

【ゴマノハグサ科】

花期 7月中旬～7月下旬
生育地 風衝地の湿潤な礫地や草地



エゾルリソウ

【ムラサキ科】

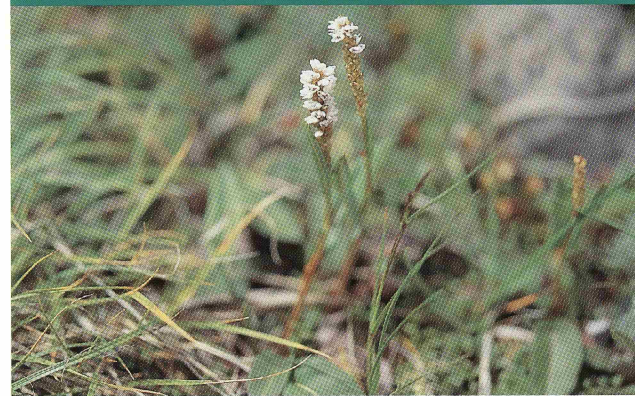
花期 7月下旬～8月上旬
生育地 適潤な礫地や草地



ムカゴトラノオ

【タデ科】

花期 7月～8月
生育地 礫地や草地



チンゲルマ

【バラ科】

花期 7月～8月上旬
生育地 適潤な岩石地や草地



ヨコヤマリンドウ

【リンドウ科】

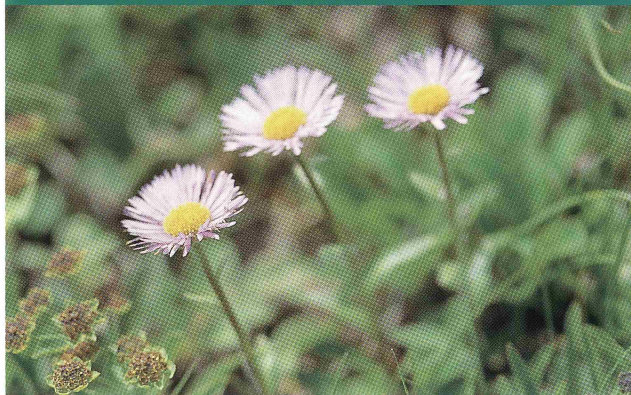
花期 7月中旬～8月
生育地 草地



ミヤマアズマギク

【キク科】

花期 7月上旬～8月上旬
生育地 乾燥した礫地



ミヤマリンドウ

【リンドウ科】

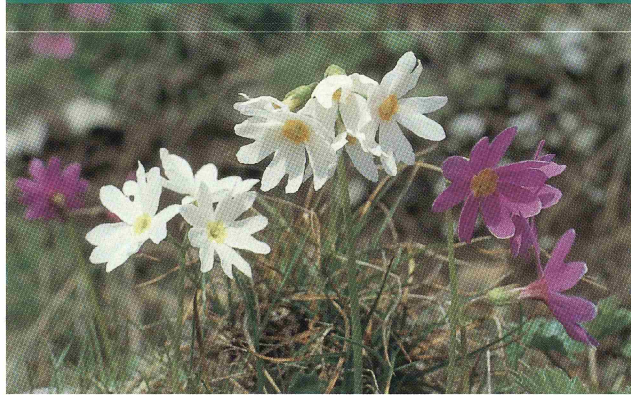
花期 7月上旬～8月中旬
生育地 適潤な草地や沼沢地



エゾゴザクラ

【サクラソウ科】

花期 7月中旬～8月上旬
生育地 湿潤な草地



エゾタカネズミレ

【スミレ科】

花期 6月中旬～7月上旬
生育地 風衝砂礫地・構造土・乾燥した礫地



エゾオヤマノエンドウ

【マメ科】

花期 7月～8月上旬
生育地 風衝の厳しい乾燥した礫地



チシマギキョウ

【キキョウ科】

花期 7月中旬～8月上旬
生育地 乾燥した礫地や岩石地



クモマユキバンタ

【ユキノシタ科】

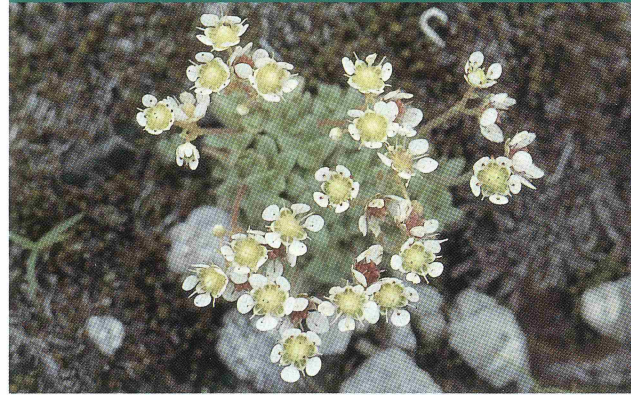
花期 7月下旬～8月中旬
生育地 湿潤な礫地や草地



チシマクモマゲサ

【ユキノシタ科】

花期 7月中旬～8月
生育地 湿潤な礫地



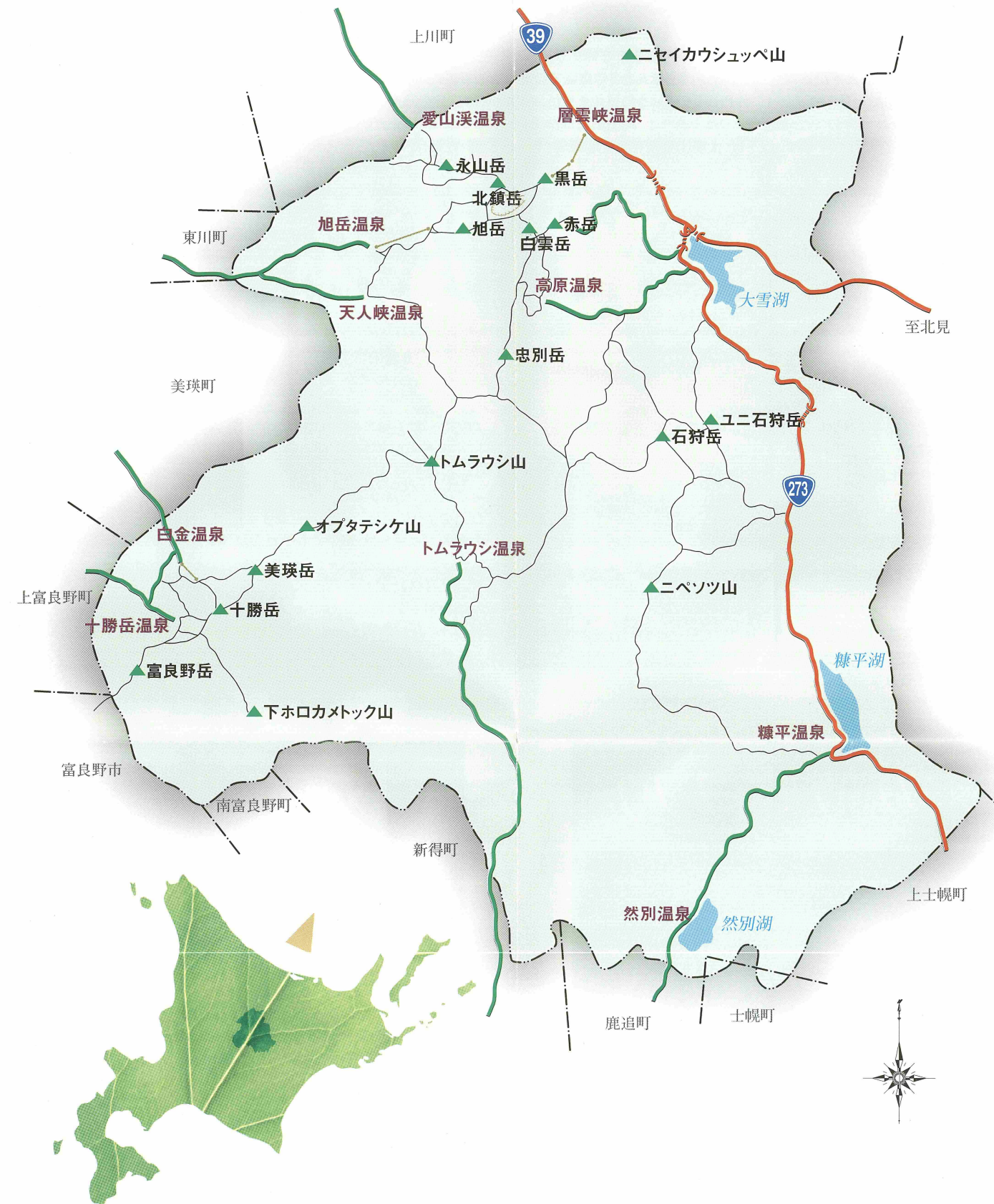
エゾツツジ

【ツツジ科】

花期 7月下旬～8月中旬
生育地 湿潤な礫地・岩石地



大雪山国立公園概念図



エゾハツガザクラ

【ツツジ科】

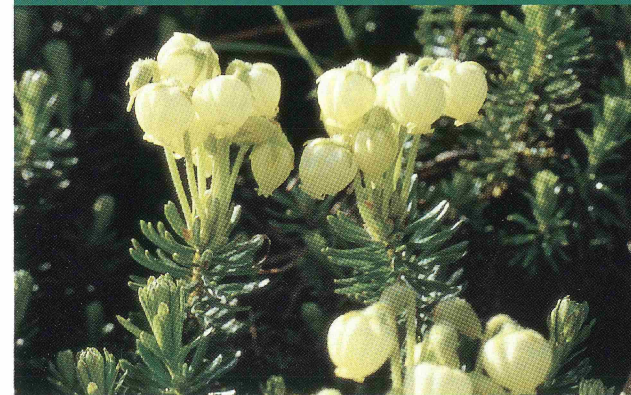
花期 7月初旬～8月上旬
生育地 湿潤な岩石地や草地



アオハツガザクラ

【ツツジ科】

花期 7月中旬～8月上旬
生育地 湿潤な岩石地や草地



キバナシャクナゲ

【ツツジ科】

花期 7月下旬～8月上旬
生育地 湿潤な礫地・岩石地・草地

